

戯曲

うっふんアニマル歌劇団

作..とびたつな

登場人物

踊り子

宇宙ポリス

宇宙海賊アツカン

遺族 1

遺族 2

遺族 3

遺族 4

坊主

奥さん

旦那

ピヨちゃん

歌劇団数名

黒子

その他お好みの応じて

最初に、大風呂敷があった。

広げられた大風呂敷から、物語は生まれていく。

大風呂敷からまず生まれた、クラシカルな踊り子、トウで立つ。

白いチュチュには赤いリボン

額に太陽と月を掲げ、朝と夜を司る。

夜から朝を告げる踊りの先、朝のホライズンが光り始める。

踊り子に起こされるように、眠りから覚めていく役者たちは、夜

と朝、夢と朝のうつつ、祈りを捧げる。

ある者は賛美歌

ある者は般若心経

ある者は祝詞

ただただ手を合わせる者もある

みな、口々に朝を祈りながら朝の支度をする

どこかからか

「なぜ、祈るのですか」

「何を祈るのですか」

「なぜ、祈るのですか」

と聞こえるが、それは祈りの一部のようにもある。

賛美歌が響き、幕が引かれ、坊主が読経したまま残る

賛美歌と読経がプツリと切れ、坊主ストップモーション

黒子が現れタイトル幕をひらく

「うっふんアニマル歌劇団」

黒子が姿を消せばニワトリが声をあげ、坊主が読経を再開

どうやら枕経の真っ最中とみえ、布団に安置された遺体を囲んだ
人々が嗚咽

亡くなったのはこの家の主人らしい

どこからともなく、宇宙海賊アツカンの声が聞こえる。

アツカン「私は宇宙海賊アツカン。宇宙ポリスに追われてたつた今肉体をズタボロにされたところだ。しかし魂は生きているので、ここでこの入れ物に入り込むことに決めたのだ。とうっ」

遺族1「とうちゃあん」

遺族2「あまり泣くでねえ、あんたの父さんは泣くのが嫌いじゃった。二十歳の頃も、なあ」

遺族4、遺体がぴくり動くのに気が付く

遺族3「じゃったじゃった、あんな大怪我でなあ」

遺族2「なもなも」

遺族2・3、思い出話に花を咲かす。あまりに度を越すので1が怪訝な顔をする

遺体は尚ぴくりぴくり動く

遺族4「おっしょさん、おっしょさん」

坊主、読経に熱中し気がつかない

遺体、朝の仕草のようにもぞもぞ動き

アツカン「フハハハハ、成功だ！」

2・3、声に驚き腰を抜かす

遺族1「お父さん！」

坊主、気がつかない

遺族4「おっしょさん、これ！これ！」

坊主、気がつかない

アツカン「ふむ、まずまずの肉体。しかし固まっておるな。さあ、準備だ。誰か、風呂を沸かせ」

遺族1「オツケーとうちゃん」

遺族2・3が1を止めようとするも1はアツカンを父と信じて疑わない

坊主の読経は高らかに終わる

坊主「では続いて…んっ？」

遺族4「バカっ」

怒った遺族4が幕を引いて、どうやら場面が変わったようだ。

坊主「かかるわけで、わたくの担当した故人が、わたくしの不注意により身体を乗っ取られたということは、なんでも、わたくしの責任でわたくしが脳なしであるということだ」

黒子「ここはアニマル探偵社」というテロップ幕を出す。

声「ふむふむ」

坊主「遺族のみなさんが求めるように太刀打ちしようにも、人知を越えたアツカンは、わたしのごとく修業不足の脳なしのへたれ坊主にはどうにもできません。そこで、噂に名高いアニマル探偵にお願いにあがった次第です」

声「ふむ」

算盤の音が聞こえる

声「前金でこんだけでどう」

坊主、しゅしゅながら財布を渡す。財布が薄っぺらくなって返ってくる。

一方の幕が引かれ、坊主が隠れる

一方の幕が引かれ、声の主ピヨちゃんがあらわれる

ピヨ「ひいふうみいよ、毎度あり」

後ろの幕も引かれ、歌劇団があらわれる

歌劇団「毎度あり」

歌劇団、毎度ありの歌を歌う

それをBGMにピヨちゃん、宇宙海賊アッカンの資料をかき集め、
作戦会議本部を立てる。

坊主、こっそり事務所を出る

そのまま携帯を取り出し

坊主「奥さん、奥さん、アツムール」

歌劇団がシルエットとなり、奥さんが現れる

タンゴを踊る坊主と奥さん

フランス語で愛を語らい、フィニッシュ

坊主・奥さん「ジュテーム」

黒子、看板を持って現れる

看板の文字は「失樂園」「出奔」「かん通」「逐電」「自我」「エロ
ス」「プリン」「非道徳」「禁断」等々

その看板を一刀両断する旦那

旦那「アニマルたんでーい」

ピヨ「はいはいはい」

旦那「妻が浮気して家出して相手が坊主で俺はハゲた！」

あれこれ省略するが、商談成立した

ピヨ「前金でこんだけ」

旦那「頼んだ」

旦那、残る看板を全て倒して帰る

歌劇団、任務が増えてどよめく
無視して

ピヨ「アツカンを倒すついでに奥さんを探して連れ戻し、坊主から残金を回収すること！」

団員A「奥さんの顔形は?!」

ピヨ「女♠オジャージャー麺が好き」

団員B「坊主の特徴を頭髮以外で」

ピヨ「大卒ロック好き」

団員C「アツカンの弱点は」

ピヨ「キャベツ」

団員D「坊主から回収する残金は」

ピヨ「アツカン倒せないと…こんだけ。アツカン倒すと…こんだけ」

歌劇団、各々オツケーのポーズを取る

やがてポーズから報道が見えてくる

該当団員、新聞を棒読み

「宇宙海賊アツカン、飲み屋に出没、適量を守る律儀さに警察から模範
飲ん兵衛の称号、ムチツと魅惑のボディをお届け秘密厳守」「こちらはア
ツカンが立てこもりを続けるAさんのお宅です。あ、今、今アツカンが、
味噌汁を飲んだ、Aさん宅の家族と思われる少女に山菜ごはんをよそっ
てもらっている、いったい、なにが、行われているのでしょうか」「アツ
カンキター！もしかしてアツカンいい香具師じゃね？アツカンはかぐや
姫、アツカンの顔をアスキーアートで」

それらの情報を広い、ピヨちゃんは足にくくりつける

ピヨちゃんは鳥の要領で舞い、渡る

ときに「クルツク」と鳴きながら

ついでにみづいばみ、ピヨちゃんは食を営む。ついでにみづの先にイタ飯屋の看板を見つけ、ジャズが流れ、ピヨちゃんはアダルトティにお化粧、アツカンとデート

ピヨ「乾杯」

アツカン「乾杯」

ピヨ「この赤、あなたにはない色でなくて？」

アツカン「ブラッディカラー。げに」

ピヨ「あなた、飲んでくださる？」

アツカン「何を」

ピヨ「あたくしの赤」

アツカン「ワインかな、それとも麗しいこの」

敵対する二人の、探り合いでも遊びでもあるようだ

黒子が「大人の会話です察してください」とテロップ幕を引く。途端に二人の会話は聞き取りづらくなる。

そこへ遺族1現れ

遺族1「ちよつと父ちゃん！浮気はダメなんだよ！」

アツカン「ええい邪魔が入った」

ピヨ「仲間をよんだわね」

それならばとピヨが笛を吹くとリズムカルに歌劇団が登場

団員A「すけだちいたす」

遺族1「母ちゃんが泣いてるんだからね」

遺族1と団員、戦う様子

ジャズは引き続き流れ、いつしか舞台は岬の漁師小屋
坊主と奥さんが身を寄せあう

奥さんは「あんたあ、働こうかあ、死のうかあ」しか言わず、坊主は独白しつつ「うん、死のう」だの「働こうか」だの言う

坊主「俺はとくと考える。なぜこの女と一緒にになったのか。愛していないといったら嘘だ。奥さんを愛し煩悶し俺は世を捨てた。いや、出家の折に一度世を捨てたのだし、すると俺は再び世を捨てたということになる。二度、世を捨て、行き着いたこの場所を、三度捨てたら俺はどこへ行くというのか。愛していないというのは嘘だ。しかし愛しているというのも、また嘘だ。」

奥さん「あんたあ…あたしを捨てるのね」

坊主「捨てませんよ」

奥さん「わかるの」

坊主「捨てませんってば」

奥さん「わかるのよ、あんたって、そうだわ。真面目な堅物かと思えば女を口説き、説法したのと同じ声であたしの旦那を悪く言う」

坊主「それは奥さんが綺麗だったからだ」

奥さん「街で噂の宇宙海賊いるじゃない」

坊主「女は話がコロコロ変わる」

奥さん「聞いたところによれば、飲み屋で無銭飲食したかと思ったら、次の日全額支払っている。お隣にいる寝たきりのお年寄りを介護し、不良少年をお説教。悪い人じゃなさそうだわ」

坊主「ありゃ地球外生命体だよ」

奥さん「何がいけないのかしら、なんで、退治しなくちゃいけないのかしら」

坊主「人の肉体を奪ったことがあやつの罪状だ」

奥さん「その肉体はもう死んでいるんでしょう。いいじゃない」

坊主「倫理に反するからダメだ」

奥さん「じゃああたしたちもダメなのかしら、倫理に反するから」

坊主「またその話ですか」

奥さん「あんたあ…死のうか」

冒頭に戻る

坊主「俺はとくと、とくと考える。いったいぜんたい、この女のどこがいいのか。衰え垂れた乳房か、枯れ始めた黒髪か、乾いた肌か、声か、高潔から遠い魂か。この女の魂は、美しくなどない。法典でシツダルタが叱責するとき女であり、このような女は娶るべきでないのだ」

夕暮れ、窓の外を海鳥が鳴き、屋台の音聞こえてくる

坊主「日本海の夕暮れか」

奥さん「燃えるようだわ」

坊主「太陽のことをヒとは、よく言ったものだ。わたしたちの毎日はヒによって繰り返されるのだな」

奥さん「あたしたちの明日にはどんなヒが燃えるのかしら」

坊主「太陽のことをヒだとは、よく言ったものだ」

奥さん「不道德の街、ソドムとゴモラに災厄が降る、逃げるがいい選ばれし子。さあ、あたしを捨てるなら、捨てる前に殺してちょうだい」

坊主「いじらしいことを言う。誰が捨てるもんか。誰が捨てるもんか」

坊主、言いながら奥さんの首に手を掛ける。

と、歌劇団チャルメラの屋台から参上

団員A「そこまでだ！」

団員B「現場はおさえた！」

ピヨ「ジャージャー麵に誘われたわね」

坊主「あなたたちは」

ピヨ「名乗るほどの者じゃございせん。ただ、誰が呼んだか、アニメル歌劇団とは我々のことだ！」

歌劇団、次々自己紹介を始める。ホワイトハト、ブルーギルスズキ、シバイヌラツキー、…続々現れるがどうやら一人あたり複数役こなしているようで、途中から要領悪くなる。坊主はその正体がピヨちゃんだとわかるので、「アニメル探偵でしょ、仕事は？アツカンは？」と聞くが悉く無視される。奥さんはカラカラ笑い「ああおかしい」と腹を抱える

歌劇団、テーマソングを歌いながら奥さんを捕まえる

坊主「奥さん！奥さん！」

奥さん「あんた」

団員A「お怪我ないですか」

奥さん「ええないわ」

団員B「旦那がお探しだよ」

奥さん「ああそう」

ピヨちゃん、坊主に請求書を渡す

坊主「アツカンは」

ピヨ「これから退治するの。あんたも来る？」

坊主「いやわたしはやめておこう」

奥さん、あっさりと帰ってしまう

坊主、ひとり残って、「アムール。ジュテーム。奥さん」とつぶやいて、賛美歌を歌う。

黒子、幕「突然ですが戦闘です」を持ち現れ、語り始める。

黒子「時はンン月ツゴモリ宵の刻。西方煌めく金星や、月は鎌と欠け、そびゆビルディング、にわか陰る町並み、宇宙怪電波のさつとぞ走り抜けるを気付くはアツカンただひとり。東方、夜の闇より現れたるは、ご覧のアツカン、上下スーツに身を包み、右に薔薇、左にiPhone、株価の変動が気になるお年頃。さて西方、日暮れの方には、犬とタコとハト、我らがアニマル歌劇団。いかに、いかにい」

黒子が演説する間、団員とアツカンが取っ組み合いを始める。その隙をぬってピヨちゃんが端から狙いを定めて電子銃を撃つ。ビームはアツカンの急所を外して当たる。アツカン、よろめく。そこをピヨちゃんが再び銃を向ける

遺族1「父ちゃん危ない」

遺族1、鏡で跳ね返す

ピヨ「コケーッ」

ピヨちゃん、しゅうしゅう煙を吐いて倒れる。

団員たち駆け寄る

「団長」「体調」「ピヨちゃん」「焼鳥！」やがて呼び声は「焼鳥」に統一される

歌劇団、焼鳥レクイエム、歌う

遺族1は殺人の罪で逮捕される

歌に合わせてピヨちゃんは料理され、

ジャズが流れる

ここはいつかのイタ飯屋

アツカン、ナプキンをつけ、ナイフとフォークで料理を待つ

黒子、「行列の出来るイタ飯屋」の幕を持って走る

幕の裏には行列がいる。

食事前に祈りを捧げるアツカン

ひとりで「乾杯」と料理に向けてワイングラスを捧げ、誰もいない席のグラスにワインを注ぐ

そして泣く

一方、逮捕された遺族1は取り調べを受けている

遺族1「正当防衛だよ」

取り調べ官「カツ丼食うか」

遺族1「父ちゃんに会いたい」

取り調べ官「カツ丼食うか」

遺族1「父ちゃんに会いたーい」

取り調べ官「カツ丼食うか」

遺族1「父ちゃん」

取り調べ官「お前の父ちゃんは、もう死んでるんだぞ」

遺族1、「知ってるよ」

と、そこへ宇宙船が降り立ち、アツカンを逮捕しにきた

宇宙ポリス「うらー、海賊アツカンめー、逮捕だ逮捕」

アツカン「フハハハハ、宇宙ポリス、よくわかったな」

宇宙ポリス「地球からメールが届いたのよ。(と、メールを読み上げる)
拝啓、はじめてメールします宇宙ポリスさん、実は(略)ここに私がま
とめたアツカンに関するニュースを添付します、アニマル探偵社代表取
締役ピヨ」

ピヨ、と聞いてアツカン大泣きする

アツカン「ピヨちゃん、うわーん」

宇宙ポリス「さあ、行くぞ」

宇宙ポリス、アツカンをお縄ちようだいし、宇宙船へ連行する

遺族1、走り来て「父ちゃん」

と、突然アツカンが倒れた

遺族1は駆け寄る

宇宙ポリス「アツカンめ、魂離脱の術を使いおったな！ニン！」
と、忍装束になる

アツカンの声「フハハハハ、宇宙海賊アツカンは不死身なり」

遺族1「父ちゃん…父ちゃん」

宇宙ポリス、「大宇宙におはします八百万の神々よ、宇宙海賊アツカンが魂、きよめはらえたまえ、かしこみかしくみもうしたてまつる、ハッ」

アツカンの声「されるものかー、ワハハハハ」

アツカンの高笑い、次第に遠くなる

宇宙ポリス、「きよめたまえはらえたまえ」と言いながら追いかける。

宇宙船は遠く飛んで行った

夜空に浮かぶ二つの宇宙船。

きよめ号とはらえ号

その映像を黒子が消して、黒子は実はいつぞやのダンサーだった新しい朝を踊る

祈りの声がまた響く

疑問符は音楽のように投げ掛けられるが、誰も返さない

その声は、彼ら自身の声である

遺族1、般若心経を唱える。

やがて朝日がのホライズンが輝き始める。坊主、ひとりでタンゴを踊り現れる

取る手のない両手を見つめ、そつと座る。

遺族1は主人の顔に白い布をかけ、顔を伏せる。坊主がお経を読み始める。どうやらこれは枕経である。

ピヨちゃんあらわれ、財布のお札をついばみ、ついに朝日はのぼった

ピヨちゃん、朝のポーズで「コケッココーッ」

全員朝のポーズで「コケッココー」

チャンチャン♪のリズムに合わせて、黒子、大風呂敷を、閉じた
そんなかんじ。